

# きべりはむし

## 第21巻 第1号

### 目 次

兵庫県産甲虫類研究史概説(3)	高橋 寿郎	1
兵庫県下でのエグリゴミムシの分布	高橋 寿郎	4
兵庫県下でのモンキナガクチキムシの分布	高橋 寿郎	5
ヒトクチャタケに集る甲虫・Ⅲ	高橋 寿郎	6
三木市内における蝶の採集記録	永幡 嘉之	10
ウラクロシジミの県南部における記録	永幡 嘉之	22
ヘビトンボを西宮市で採集	田中 稔	23
オオツノトンボを西宮市で採集	田中 稔	24
笹部で得た3種のウスバカゲロウ	森 和夫	24
ムモンオオハナノミを西宮市で採集	田中 稔	26
ミツコブエンマコガネ網干に産す	田中 稔	26
ヨコミゾコブゴミムシダマシをシイタケで採集	森田 真澄	27
猪名川町におけるツシمامツボシタマムシの追加記録	森 和夫	27
三草山で得たベニバハナカミキリとアオカミキリ	森 和夫	28
シラホシハナムグリの新産地	高橋 寿郎	29
オオセンチコガネの多産地	高橋 寿郎	30
ヒラタアオコガネの産地	高橋 寿郎	30
オオタコゾウムシの散歩	高橋 寿郎	31

県関係文献紹介

県関係・学会誌・同好会誌・連絡誌

会員異動

兵庫県昆虫同好会

1993年5月

# 兵庫県産甲虫類研究史概説（3）

高橋 寿郎

## 明治・大正時代の研究

明治10年（1877）4月12日東京開成学校および東京医学校を合併して東京大学と改称し、法・理・医及び文学の四学部を置いた。動物学教授はアメリカ人モールズでありその第1回の卒業生が佐々木忠次郎博士である。

日本人による昆虫学研究の最初の発表は佐々木忠次郎博士が明治19年発表された“カイコノウジバエの microtype-egg の生活史の研究”（1866）であるとのこと。

日本の昆虫学の基礎を作った人の1人として吾々昆虫学を研究する者に忘れることの出来ない人に松村松年博士がいる。明治5年3月5日兵庫県明石郡大明石町東片端に生れるとあるから兵庫県出身の方である。ただ残念なことに明治17年には大阪の川口英和学会へ入学、京都同志社、英和学校、東京明治学院予備校を経て札幌農学校に入学（現北海道大学）、その人生のほとんどを北海道と東京で過ごされたので兵庫の虫とのつながりは研究論文以外には割合なく兵庫県下で採集された標本によるご自身の研究発表或いは当時の札幌農学校、後の東北帝国大学農科大学、北海道帝国大学農学部等で研究された方々による発表の材料として利用された県下産の標本による寄与はかなりある。また松村博士の研究材料を提供されていた人に鈴木元次郎氏がありその頃各地を採集していたが晩年は明石に花園昆虫研究所を開いておられ私もその頃お伺いしたことがある（昭和15年頃）、氏はその後宝塚昆虫館にもおられた。

兵庫県下の昆虫相を日本人によって一番始めに発表された人として大上宇市氏を挙げる事が出来る。氏は慶応元年五年十七日揖保郡香島村篠首に生れた。学歴はほとんどなく独力で動植物を主とする自然研究を生涯に捧げた。採集は生地を中心に雪彦山、船越山を始め近畿地方各地に及び全国各地の同好者との標本の交換、諸種の書籍を借覧書き抄録し、或いは自ら図を書き著述もなした。明治23年頃から諸種の雑誌に投稿を始めた。

一番始めに投稿発表されたのは「東洋奇術新報 第3号（明治23年9月）」だと思われる。内容の内“毛虫を防ぐ法に就いて、毛虫の毒に就いて問ふ”等昆虫に関する記事もふくまれている。昆虫関係の報文はその後動物学雑誌、昆虫世界に主として発表をしている。氏はどちらかと云えば菌類、植物、貝類の研究などで良く知られているが昆虫についてもなかなか造詣が深く、特に発蜂に関する著

作も多くある。昭和16年77才にて歿すとある（大上宇市氏に関する資料は1992年3月新宮町教育委員会から“没後50周年記念，郷土の偉大な博物学者 大上宇市，新宮町文化財調査報告17”として出版された。氏に関してはこの書によって詳しくわかる）。

東京大学が設立された翌年“東京生物学会”が出来，明治15年に植物学会が分離して“東京植物学会”となり残された方は必然的に“東京動物学会”となった。そしてその機関誌“動物学雑誌”が創刊されたのが明治21年11月である。当時他に未だ昆虫専門誌は発行されていなかったので当然昆虫の記事もこの雑誌に発表された。

大上宇市氏の兵庫県の昆虫に関する報文の発表されたのは同誌139号（明治33年5月）“播磨産蝶類報・播磨網干港の採集”である。それ以前には他誌に害虫関係の報文の発表が若干ある。その後同誌13巻（明治34年）に兵庫県の甲虫相が発表された。発表されたものは播磨産象鼻虫科，天牛科，金龟子科，金花虫科，歩行虫科，朽木虫科（13：155，156，167号）の各科で当時充分な文献もなく分類同定に大変苦勞があったと思われる。従って之等の報文は学名のないものも多く和名だけで記載も無いことから現在その全部の記録種を判別はし難い（標本も現存していないので）。特に珍しいものはふくまれていないようであるが兵庫の昆虫の研究が欧米人による兵庫（神戸）を中心とした地点で始まり日本人による兵庫県の昆虫相の研究が揖保郡，佐用郡で始まったことは注目されるべきで明治迄の県下の文化が姫路から西に開けていたことがうかがえる。

井口宗平氏は佐用郡久崎村の人，明治の終り頃盛んに昆虫採集をされそれを松村博士のもとに送った。松村博士はそれに基づいて次々と新種を発表されたが井口氏の名をつけた虫も多い。例えばイグチヒラタカメムシ，イグチヒシウンカ，ウチグロヒメヨコバイ，イグチヒメヨコバイ，ハナダカサシガメ，イグチベニサシガメ，イグチサシガメ等は井口氏を記念して名付けられた虫であり井口氏の発見した昆虫としてはハリマヒメヨコバイ，マヘキヒメヨコバイ，スカシヒメカメムシ，コバネマキバサシガメ等がありいずれも播磨産のものである。但し甲虫類の記録のほとんどないのが残念である（井口宗平氏明治十八年七月生れ，先祖伝来の百姓。明治三十七年岐阜市名和昆虫研究所に入り害虫益虫の研究をすること2年，帰宅後7，8年間引続き昆虫の採集と研究に没頭し，標本3，000余種をつくる。久崎村の村長に選ばれて一期間在職，昭和三十二年から同志の協力のもとに“久崎町誌”の編集に着手し同三十七年刊行，その後引続き“佐用郡ことわざ集”“彦八ばなし”“佐用郡俗語方言集”昭和四十一年には“のじぎく文庫”から“民謡の炉ばた”を出版）。

名和昆虫研究所より昆虫雑誌“昆虫世界”が創刊されたのが明治30年でありその後50年にわたって休むことなく発行され日本の昆虫学発展のため大いに貢献した雑誌であり当時の多くの昆虫学者が執筆し新進無名のアマチュア研究者の研究発表の機関としても広く利用された。

大上宇市氏も再び県下の甲虫相を発表しておられる。即ち明治39年（1906）“播磨産甲虫類”と題

して同誌10巻112号, 1907年, 11巻, 115~118号に299種の甲虫類を記録. 今回の報文は前回と異なり Lewis 氏の日本甲虫目録, 松村松年博士の日本千虫図解, 日本昆虫学, 動物学雑誌, 昆虫世界を夫々参考とした価値ある研究発表となっている.

井口宗平氏も同じ年, 同じ雑誌上の数多くの論文を発表しておられる. 10巻101号に“アカフチミドリとササナミウドハマキに就いて”を発表され (p. 34-35), 引続き昆虫雑観 1~6 (10巻106号: 247-248, 在岐阜とある. 108号: 333-335, 109号: 375-377, 110号: 424-426, 111号: 461-463, 11巻: 113号: 29-31), 第11巻, 第121号: 418-420に“兵庫県佐用郡産蝶類目録”なる表題で68種を記録, その後“佐用郡昆虫目録”を12巻, p. 116, 158, 201, 251, 291, 335, 337-1908に夫々発表されている. 氏の報文は甲虫に関するものは極めて少なく僅かに上記昆虫雑観一に豌豆象虫と豆象虫, 亀甲瓢虫 (カメノコテントウ). 二, ヒメマルカツオムシ. 三, 葉捲象鼻. 五, シギゾウムシ. 六, クロウリハムシの記述がある.

芝川又之助氏も明治36年 (1903) 頃より須磨, 甲東村大市を中心に採集研究をしておられ発表もされ, その採集された標本は鈴木元次郎氏が整理し戸沢信義氏が保管しておられたが1946年宝塚昆虫館に寄贈された. その標本の内容については1936年戸沢信義氏が“紫水遺稿”別巻としてまとめられ産地も詳しく出ている.

この時代に忘れてならない人にルイス氏がいる. ルイス (John E. A. Lewis, 1862~1938), 明治初年来訪, 日本の昆虫学, 甲虫類の基礎をつくったルイス氏 (前出) とイニシアルこそ違うが同じ名であり混同し易いがこのルイス氏はボルネオのサラワク政府官吏として奉職その後行政官に任命, 政府印刷局兼サラワクガゼット編集長の後警察監獄検閲長官から第一行政理事室, 国会議員, 同会議書記官となり退官するまで約20年間ボルネオの昆虫を蒐集その標本全部を大英博物館に寄贈の後永住の地として神戸市をえらんで来日したのは1909年 (明治42年) のことである.

神戸市原田に居を構えられて亡くなられる昭和13年 (1938) 迄神戸を中心として全国を採集され主として甲虫類であるが採集した標本は夫々専門家に送って研究を依頼され自分ではアマチュアであるからと発表されることがなかったので文献には残っていないがルイスの名を学名にとり入れられたのは多くある.

また神戸の名をつけられた虫もルイス氏の採集が神戸付近中心であるからかなりある. ルイス氏が専門家に送って種名を決定されたのは2, 538種以上あると. 専門家に送って種名を確定されたのは同じ種の余分個体は送り返してもらっておられるので大変貴重な標本で日本の甲虫を研究する上に欠くことの出来ない標本であり, 死後その標本は京都大学へ, 蔵書は関西昆虫学会へ寄贈され保管された (京都大学の標本は管理が悪く現存しないのではないかとのこと). \*

池長 孟氏は神戸市兵庫の井上家に生れ兵庫の素封家池長 通の養子となった人で私立育英商業  
\*戸沢信義. コレクションの行方. 宝塚昆虫館報 (51) : 22, 1948.

学校（現育英高校）校主兼校長として後“池長美術館”を開設したことで有名な人。植物・昆虫の採集をして会下山に“池長昆虫館”をつくり昆虫・貝のコレクションを展示されたと。その後は池長美術館を作る方に発展された。この昆虫館のことは詳しくはわからないが大正6～10年（1917～1921）頃に作られたものようである（1989年池長 孟の自伝が高見沢たか子著“黄金の港”（筑摩書房）として出版された。それによると会下山にこしらえたのは池長植物研究所でそれは一般に公開されることなく終わったようである）。

この当時の大変面白い記録が戸澤信義氏の御教示で知ることが出来た（私信）。即ち大正7年頃JR（当時は鉄道院）三宮駅（今の元町駅付近）の貨物掛に勤務されていた加古川在住の高田千万喜という人が駅構内で貨物からこぼれたものを採集された標本並びにその他の地で採集した標本を持参戸沢氏を訪問された由（その時の標本に基づいて野平安芸雄博士が昆虫学雑誌、第3巻、第3、4号、1919に短報を発表しておられる）。その中には烏原で採集されたキベリハムシの標本が数頭あったと（この記録は日本での本種の初めての記録であると考えられる）。駅構内での採集品の中にはダイコクコガネ、外国産の甲虫があり、インド、オーストラリア産らしい標本がありそれらが貨物からこぼれたものであるとのこと。当時の状況から外国産の昆虫が日本に潜入することが可成りあったのではないだろうか（日本に定着出来たかどうかは別として）。従ってこのような経過でキベリハムシが神戸に定着したのではないかと考えられ大変面白い記録である。尚同氏のコレクションは土地の素封家に譲られた由、一部は京都大学に売られたということである。

明治・大正時代の文献は充分見られなかったのでこの時代の兵庫県の昆虫研究史はこれ以上わからなかった。だが日本の昆虫学の発展も次第に調子をあげてきていわゆる昭和初期黄金時代に入ることになる。

## 兵庫県下でのエグリゴミムシの分布

（兵庫県甲虫相資料・273）

高橋 寿郎

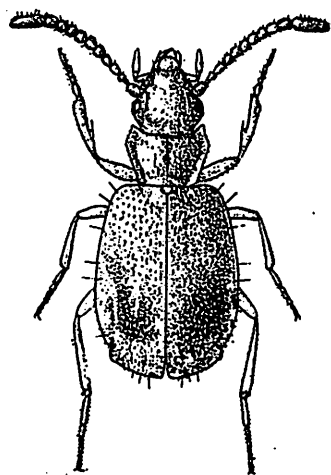
エグリゴミムシは G. Lewis が1896年 *Eustra batesi* Lewis として新種記載をされた（Ann. Mag.

Nat. Hist. Ser. 6. X VII: 330).

その記載文で九州で石の下とか朽ちた樹の樹皮下とかに普通におり、しばしば群居する。また Kashiwagi 及び Maiyasan near Kobe でも得たとある。即ち摩耶山は原産地の1つである。Lewis はさら Bates が *Eustra plagiata var. japonica* Bates, 1892 としているが異なるとも書いている。*Eustra plagiata* Schmidt-Gobel とは異なるが現在は *Eustra japonica* Bates, 1892 なる学名が用いられている。

兵庫県下では本種は広く分布しているように思うのだが今の所北部山岳地域からの記録が知られていない。現在わかっている県下の記録地と筆者の採集地とを此処に紹介しておく。

三原郡灘〔久松, 1973〕。川西市笹部〔仲田, 1982〕。神戸市摩耶山〔Lewis, 1896〕, 木津 (1ex., 29-VII-1984)。多紀郡篠山町王池公園〔岸田, 辻, 1975〕。小野市山田 (1ex., 7-IX-1987)。揖保郡新宮町福原 (1ex., 15-VII-1992, 3exs., 17-IX-1992), 相生市三濃山 (1ex., 3-V-1974)。



エグリゴミムシ *Eustra japonica* Bates

図1. 新昆虫, Vol. 15, No. 8, 1952より  
エグリゴミムシ *Eustra japonica* Bates

## 兵庫県下でのモンキナガクチキムシの分布

(兵庫県産甲虫相資料・274)

高橋 寿郎

モンキナガクチキムシ (*Penthe japana* Marseul) (キノコムシダマシ科) は中型の甲虫で (10-14 mm)。黒色, 前胸背板後縁と小楯板に金毛を有しわりと注意をひく甲虫である。雄の觸角第5節は巾広くなっている。分布は北海道, 本州, 四国, 九州, サハリンとなっている。兵庫県下からの記録はあまりないが恐らく県下に広く分布している種ではないかと思われる。1992年揖保郡新宮町福原でシイタケのホダ木に出来ていたカワラタケに多く見ることが出来た。此処に県下の記録地点と筆者の採

集した記録を紹介しておく。

氷上郡〔山本, 1958〕. 多可郡加美町三谷 (1♀., 29-IX-1974). 神崎郡大河内町川上 (1♂., 22-X-1977). 揖保郡新宮町福原 (1♂, 1♀, 10-V-1992, 2♂, 6♀, 17-IX-1992). 相生市三濃山 (1♂, 20-V-1973, 1♀, 18-V-1973, 2♂1♀, 1-VI-1974, 1♀, 8-VI-1974). 宍粟郡赤西 (1♂1♀, 3-VI-1979, 2♂1♀, 23-VI-1979). 養父郡氷の山〔高橋, 1959〕. 美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972., 高橋, 1975〕

## ヒトクチャケで採集した甲虫類・Ⅲ

(兵庫県甲虫相資料・275)

高橋 寿郎

ヒトクチャケにやってくる甲虫達については筆者2回にわたって発表した(1988, 1990). 今回は1991年に加古川市上荘町白沢で調査・採集した結果を発表したいと思う。

今回の調査・採集も全面的に蜂谷幸雄氏の御協力を頂いた。ここに記して厚く御礼申しあげる。

### I. 今回調査地域の概説

今回報告する調査地域は加古川市上荘町白沢(標高約110m)にて今迄報告した各地点より一番南側、海岸線にわりと近い地域である。数本の松に発生していた数10個のヒトクチャケより採集したものである。今迄の地点に比べてここが一番数多くヒトクチャケを見出したが全般にヒトクチャケが小さく全く甲虫のみられなかったものが数多くあった。また9月の調査ではヒトクチャケをほとんど見られず若干見つけたものも小さく虫の入っている痕跡も見られなかった。

調査日は次の通りである(全部1991年)5月9日, 30日. 6月21日, 26日. 9月4日, 12日の6回。

### II. 今回の調査でヒトクチャケより採集した甲虫類.

(○印の種は今回初めてヒトクチャケより記録するもの。数字を丸で囲んだのは採集個体数)

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| ○ <i>Heterhelus japonicus</i> (Reitter, 1877)         | キイロチビハナケシキスイ (ケシキスイ科) ②    |
| ○ <i>Brachypterus urticae</i> (Fabricius, 1791)       | コクロチビハナケシキスイ (ケシキスイ科) ①    |
| <i>Aphenolia pseudosoronia</i> Reitter, 1884          | オオヒラタケシキスイ (ケシキスイ科) ⑥      |
| ○ <i>Omosita colon</i> (Linnaeus, 1758)               | キボシヒラタケシキスイ (ケシキスイ科) ①     |
| ○ <i>Trimonus adpresus</i> Murray, 1864               | オオメアカヒラタケシキスイ (ケシキスイ科) ①   |
| <i>Cryptophagus enormis</i> Hisamatsu, 1962           | オオナガキスイ (キシムシ科) ⑰          |
| ○ <i>Cryptophagus decoratus</i> Reitter, 1874         | クロモンキスイ (キシムシ科) ①          |
| ○ <i>Cryptophagus callosipennis</i> Grouvelle, 1919   | ヨツモンキスイ (キシムシ科) ③          |
| ○ <i>Cryptophagus cellaris</i> (Scopoli, 1763)        | ウスバキスイ (キシムシ科) ①           |
| <i>Dacne picta</i> Crotch, 1873                       | セモンホソオオキノコムシ (オオキノコムシ科) ①  |
| ○ <i>Tritoma niponensis</i> (Lewis, 1874)             | クロチビオオキノコムシ (オオキノコムシ科) ②   |
| ○ <i>Aphanocephalus hemisphericus</i> Wollaston, 1873 | クロミジンムシダマシ (ミジンムシダマシ科) ①   |
| <i>Mycetophagus antennatus</i> (Reitter, 1879)        | ヒゲブトコキノコムシ (コキノコムシ科) ①     |
| <i>Mycetophagus hillerianus</i> Reitter, 1877         | ヒレルコキノコムシ (コキノコムシ科) ③      |
| <i>Mycetophagus pustulosus</i> (Reitter, 1889)        | コマダラコキノコムシ (コキノコムシ科) ⑫     |
| <i>Parabolitaphagus felix</i> (Lewis, 1894)           | カプトゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ①    |
| <i>Platydema subfascia</i> (Walker, 1858)             | ベニモンキノゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ⑯ |
| <i>Platydema marseuli</i> Lewis, 1894                 | アオツヤキノゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ⑩ |
| ○ <i>Alphitophagus bifasciatus</i> (Say, 1823)        | フタオビツヤゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ① |
| <i>Ischnodactylus loripes</i> Lewis, 1894             | ヒラタキノゴミムシダマシ (ゴミムシダマシ科) ⑱  |

以上加古川市でのヒトクチャケより採集した甲虫は6科20種(120個体)になる。その内10種のも  
のが新顔として採集出来た。

従来の場合と採集出来たものが若干異なるように思われる。



図2 兵庫県南部でヒトクチャタケより採集した甲虫類一覧表 数字は採集個体数

種名	西宮市船坂		神戸市 逢山峽	加東郡 社町三草	加古川市上荘町白沢				計
	1987 VI・5	1987 VI・11	1987 VII・7	1989 VII・14	1991 V・9	1991 V・30	1991 VI・21	1991 VI・26	
Colenis sp.				1					1
キイロチビハナケシキスイ					2				2
キノコヒラタケシキスイ	5								5
コクロチビハナケシキスイ					1				1
オオヒラタケシキスイ	1		8		4			2	15
キボシヒラタケシキスイ					1				1
チビムクゲケシキスイ			1						1
オオメアカヒラタケシキスイ								1	1
オオナガキスイ	7	7			1	14	2		31
クロモンキスイ					1				1
ヨツモンキスイ					3				3
ウスバキスイ					1				1
セモンホソオオキノコムシ	14					1			15
クロチビオオキノコムシ					1				1
クロミジンムシダマシ								1	1
ヒゲブトコキノコムシ	12			4		1			17
ヒレルコキノコムシ	3				1			2	6
コマダラコキノコムシ				1	1	11			13
カブトゴミムシダマシ	4		9		4			1	18
オオメキノコゴミムシダマシ	2								2
チビキノコゴミムシダマシ	2			1					3
ツノボソキノコゴミムシダマシ	8	3							11
ヒメオビキノコゴミムシダマシ	1			1					2
ベニモンキノコゴミムシダマシ	18			13	1	30	4	2	68
アオツヤキノコゴミムシダマシ						8		2	10
フタオビツヤゴミムシダマシ					1				1
マルツヤキノコゴミムシダマシ				1					1
ヒラタキノコゴミムシダマシ	8	4		4	4	5	6	3	34
ミツノゴミムシダマシ	1								1
マツオオケイゾウムシ		1							1
種類数	14	4	3	9	14	7	3	8	30
採集個体数	86	15	18	30	23	70	12	14	268

### Ⅲ. まとめ（今迄の全部の記録による）

○ 兵庫県の瀬戸内海に面した西宮市・神戸市・加古川市・加東郡で出会ったヒトクチャタケに集まった甲虫は8科30種であった（総個体数 268exs.）.

○ その内一番多くまたその大部分のヒトクチャタケに見られるのはベニモンキノコゴミムシダマシが群を抜いて多い。即ちヒトクチャタケにくる甲虫のトップである。次いで多いのはヒラタキノコゴミムシダマシ、オオナガキスイの2種である。こちらも兵庫県下ではわりとどこにでもいる種のようなのである。カブトゴミムシダマシ、ヒゲブトコキノコムシ、オオヒラタケシキスイ、セモンホソオオキノコムシもわりにやってくる甲虫であるがセモンホソオオキノコムシは普遍的ではないようである。

- 1頭とか数頭の種は元来ヒトクチャタケにやってくるのでなく松の害虫とかたまたま通りすがりに入り込んだのではないかと考えられる。1991年6月26日の観察で甲虫ではないが異翅亜目ヒラタカメムシ科の1種マツヒラタカメムシ *Aradus unicolor* Kiritschenko? ではないかと思われる亜成虫が何頭かヒトクチャタケの中より得られた。名前のごとく松の樹に見られるヒラタカメムシでたまたま入り込んでいたのではないかと考えられないことはない。
- 所変れば品変るで今回の調査は兵庫県下での海岸線に近い所でのヒトクチャタケの観察であるが地域を変えて見たらヒトクチャタケにやってくる顔触れは変るのではないかと思われる（神奈川県の記事では兵庫県では見られなかった種の記録もある）。広く調べて見たらまだまだヒトクチャタケに来る甲虫の顔触れも多彩になるのではと思っている。

参考文献（図鑑類は省く）

- 林 長閑(1986) 甲虫の生活. 築地書館.
- 平野幸彦(1973) ヒトクチャタケより採集した甲虫類・I. 神奈川虫報(42): 36-37.
- S. Hisamatsu(1962) A New Species of Cryptophagus(Col.: Cryptohagidae), *Niponius*, 1(20): 1-3.
- 久松定成(1962) ヒトクチャタケをめぐる若干の甲虫類について. あげは(10): 8-10.
- 飯田信三(1938) ヒトクチャタケを繞る甲虫群. 昆虫界 6(56): 768-772.
- 宮武陸夫(1955) カワオソタケの甲虫類. 新昆虫 8(12): 2-8.
- 宮武陸夫(1960) アラゲカワラタケをめぐる昆虫類. あげは(8): 6-12.
- 中根猛彦(1948) ヒトクチャタケの甲虫類. 新昆虫 1(7): 288-293.
- 西川正明(1981) ヒトクチャタケの甲虫資料. 神奈川虫報(64): 23-25.
- 櫻井俊一(1990) ホウロクタケに生息していたゴミムシダマシ等. 山形昆虫同好会々誌(19): 25.
- 高橋寿郎(1988) ヒトクチャタケで採集した甲虫類. IRATSUME(12): 19-23.
- 高橋寿郎(1990) ヒトクチャタケで採集した甲虫類II. IRATSUME(13/14): 72-73.
- 玉貫光一(1930) ヒトクチャタケに寄生する昆虫類I(とくにカブトゴミムシダマシについて). 昆虫 4(4): 215-224.

# 三木市内における蝶の採集記録

永 幡 嘉 之

小倉 滋・高橋久夫両氏によって、本誌上に『三木市内の蝶について』と題した報文が掲載されてから、はや15年が過ぎようとしている。私は昔を知らない若い世代の一人ではあるが、それでも三木の自然の急激な破壊は目に余る。古くからそれを見続けてこられた方々の目には、この変貌はどのように映っているのだろうか。そして何よりも、今昔譚となってしまった多くの蝶たちが、開発のすさまじさを無言で語っている。

神戸まで電車で1時間弱。なだらかな地形。ベッドタウンとして住宅がぎっしりと立ち並び、ゴルフ場の密度では全国でも屈指。これらは、三木の自然が背負わされていた宿命なのか。確かに人口は増え、市としては発展したのかも知れない。しかし、抵抗することもなくその陰に消えていった多くの犠牲者を、私は蝶を通して眺めてきた。

三木の蝶を追ってきたのは私だけではない。これからも、機会あるごとにできるだけ多くの採集記録を掲載していき、その蝶相の解明に努めていきたい。今回一切の解説を控えたのは、そのような理由による。また、データは現時点において標本が手もとに存在することを条件にした。したがって、他人に譲渡したものや目撃例などは含まれていない。

今回の報告にあたっては、よく行動を共にした芝 直幸氏の採集されたものも一緒にまとめた。筆者等が中学生から高校生頃の頃にかけての採集品である。記録の整理にあたって協力していただいた同氏をはじめ、15年来にわたって御指導を頂いている小倉 滋先生、同じ東播磨で古くから蝶を追ってこられた山本広一先生など、お世話になった多くの方々に御礼申し上げます。また、発表の機会を与えられた本会の高橋寿郎氏にも感謝したい。

採集記録（永幡は永幡嘉之、芝は芝 直幸を指す）

## 1. ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous alcinous* (Klug)

高木 (8♂1♀, 1986.4.29 永幡) (2♀, 1986.5.4 永幡) (1♀, 1986.9.5 芝)

(3♂, 1987.4.29 永幡) (1♂, 1987.5.23 芝) (1♀, 1988.4.22 Br., 永幡)

(22♂2♀, 1988.5.1 永幡) (4♂2♀, 1988.5.5 芝)

(1♂2♀, 1988.5.12 西田雅昭) (3♂, 1988.6.中旬 Br., 永幡)

2. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* (Fruhstorfer)

本町 (1♀, 1986.5.8 永幡) (1♂, 1987.5.10 芝) (1♂, 1987.10.8 Br., 永幡)  
(1♀, 1988.5.12 永幡) (1♂, 1988.5.18 西田雅昭) (1♂, 1988.7.10 芝)  
末広 (1♀, 1986.5.4 永幡) 戸田 (1♂, 1988.5.13 永幡) 大塚 (1♀, 1988.7.26 永幡)  
大村 (2♂, 1986.5.4 永幡) (2♂, 1987.5.9 永幡・佐藤善昭) (1♂, 1988.5.16 永幡)  
(2♂, 1990.5.6 永幡)

3. アゲハ *Papilio xuthus* (Linnaeus)

加佐 (12♂, 1988.5.5 永幡) 平田 (1♂, 1986.4.29 永幡) 大塚 (2♂1♀, 1986.9.7 芝)  
本町 (1♂, 1986.5.4 永幡) (1♀, 1988.5.12 西田雅昭) 高木 (1♂, 1987.4.30 芝)  
(1♂, 1988.5.5 芝) 末広 (1♂, 1987.4.29 芝) (1♂, 1987.4.30 芝)  
正法寺 (1♂, 1992.4.3 永幡) (1♂, 1992.4.6 永幡) 大谷 (1♂, 1987.4.19 芝)  
大村 (1♂, 1986.4.26 永幡) (1♂, 1986.4.29 永幡) (1♂, 1986.6.9 Br., 永幡)  
(1♀, 1986.6.12 BR., 永幡) (1♂1♀, 1986.6.13 Br., 永幡)  
(1♀, 1986.7.10 Br., 永幡) (1♀, 1987.5.9 永幡) (1♀, 1988.7.18 永幡)

4. キアゲハ *Papilio machaon* C. et R. Felder

吉田 (1♂, 1988.4.16 永幡) 戸田 (1♀, 1986.6.26 芝) 平田 (1♂, 1988.5. 上旬 永幡)  
末広 (3♂, 1988.9.3 Br., 芝) (2♂3♀, 1988.9~11 Br., 永幡)  
大村 (1♀, 1986.4.26 永幡) (1♂, 1986.8.21 Br., 永幡) (1♂, 1986.8.22 Br., 永幡)  
(1♀, 1986.8.27 Br., 永幡) (1♀, 1987.4.30 永幡) (2♂, 1987.6.18 永幡)  
(1♀, 1988.4.27 永幡) (1♂, 1988.8.12 小畑——) (1♀, 1989.6.11 永幡)  
(1♀, 1989.8.24 永幡) 宿原 (1♂, 1987.8.22 Br., 芝) 本町 (1♂, 1987.7.23 芝)  
正法寺 (1♂, 1988.5.26 永幡) (6♂, 1990.4.6 永幡・芝) (1♂, 1992.4.2 永幡)  
(1♂, 1992.4.9 芝) 高木 (1♂, 1987.6.7 芝)

5. モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens* Buter

正法寺 (2♂, 1988.5.26 永幡) (2♂, 1988.5.29 永幡・芝) (2♂, 1989.5.9 永幡)

6. ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii* Siebold

大村 (1♀, 1986.9.23 永幡) (1♂, 1987.5.24 永幡) (1♂, 1987.9.13 永幡)  
小林 (1♀, 1988.9.30 芝) 大谷 (1♂1♀, 1991.10.5 永幡)

7. クロアゲハ *Papilio protenor demetrius* Stoll

正法寺 (5♂, 1988.5.26 永幡) (12♂, 1988.5.29 永幡・芝) (1♂, 1988.7.30 芝)  
(3♂, 1989.5.9 永幡) 末広 (9♂5♀, 1988.7.14~21 Br., 永幡)

- 大村 (1♂, 1986.7.11 Br., 永幡) (1♀, 1986.8.21 永幡) (1♂, 1986.8.27 永幡)  
 (1♂, 1990.7.31 永幡) 加佐 (2♂2♀, 1989.4.29~5.18 Br., 永幡)
- 戸田 (1♂, 1987.8.23 芝) 福井 (1♀, 1986.7.20 松本正孝)
8. カラスアゲハ *Papilio bianor dehaanii* C. et R. Felder  
 正法寺 (3♂, 1988.5.26 永幡) (2♂, 1988.5.29 芝) (3♂, 1989.5.9 永幡)  
 大村 (1♂, 1988.8.2 永幡)
9. ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii* Menetries  
 大村 (1♀, 1984.9.24 永幡) (1♀, 1988.9.11 永幡)
10. ツマグロキチヨウ *Eurema laeta betheseba* (Janson)  
 大村 (1♀, 1986.10.25 永幡) (1♂, 1987.9.17 永幡) (1♀, 1987.9.23 永幡)  
 (1♀, 1988.10.10 永幡) (1♀, 1988.10.16 永幡) (1♂, 1989.9.10 永幡)  
 (1♀, 1989.10.22 永幡) 志染中 (1♂, 1990.6.23 芝)
11. キチヨウ *Eurema hecabe* (Linnaeus)  
 大村 (1♂, 1986.4.24 芝) (1♂, 1986.4.26 永幡) (1♂, 1986.4.29 永幡)  
 (1♂, 1986.9.28 永幡) (1♂1♀, 1986.10.25 永幡) (1♀, 1987.4.30 永幡)  
 (1♂, 1988.4.27 永幡) (1♂, 1988.8.5 永幡) (1♂, 1988.9.23 永幡)  
 (5♂8♀, 1988.10.10 永幡) (1♂, 1989.6.11 永幡) (1♂2♀, 1989.10.21 永幡)  
 (2♂3♀, 1989.11.5 永幡) (3♀, 1989.11.23 永幡) (1♂, 1989.11 永幡)
- 戸田 (1♂, 1988.6.5 芝) (1♂, 1988.6.20 永幡) (1♀, 1989.9.16 芝)
- 小林 (1♂, 1988.4.16 芝) (1♂, 1988.8.26 芝) 大塚 (1♀, 1988.7.26 芝)
- 志染中 (1♂, 1990.6.17 芝) 興治 (1♂, 1986.6.8 永幡) 殿畑 (1♀, 1989.6.19 永幡)
12. ツマキチヨウ *Anthocharis scolymus* (Butler)  
 大村 (2♂, 1986.4.24 永幡) (2♂, 1986.4.26 永幡) (1♂, 1986.4.29 永幡)  
 (1♂2♀, 1987.4.19 永幡) (2♂1♀, 1988.4.26 永幡) (1♂, 1988.4.27 永幡)  
 (1♂, 1992.4.2 永幡) 増田 (1♂, 1988.5.3 芝) 垂穂 (1♂, 1988.5.3 芝)
- 大塚 (1♂1♀, 1988.4.29 芝) 小林 (1♂, 1988.4.30 芝)
13. スジグロシロチヨウ *Artogeia melete* (Menetries)  
 大村 (1♀, 1986.7.22 永幡) (1♀, 1988.4.26 永幡) (1♀, 1988.5.5 芝)  
 与呂木 (1♂, 1988.6.14 芝) (1♀, 1989.6.17 芝) 朝日丘 (1♂, 1987.4.29 芝)
14. モンシロチヨウ *Artogeia rapae crucivora* (Boisduval)  
 大村 (2♂, 1986.4.26 永幡) (1♂, 1986.4.29 永幡) (1♂, 1986.7.13 永幡)

(1♂1♀, 1987.4.3 永幡) (1♂, 1987.4.4 永幡) (1♀, 1987.4.13 永幡)  
(1♂, 1987.4.14 永幡) (2♂, 1987.4.19 永幡) (1♀, 1987.10.5 永幡)  
(1♀, 1988.4.24 永幡) (1♀, 1988.5.5 永幡) (1♂, 1989.3.30 永幡)  
(2♀, 1989.10.22 永幡) 久留美 (1♀, 1986.5.5 永幡) (1♂, 1986.6.7 永幡)

跡部 (6♂1♀, 1990.4.2 永幡) 志染中 (3♂1♀, 1987.3.21 永幡)

末広 (1♂, 1986.3.29 芝) (2♂, 1986.3.31 永幡) (2♂, 1988.3.29 芝)

(4♂, 1988.3.31 芝) 正法寺 (1♂, 1988.5.29 永幡) (1♀, 1990.4.15 永幡)

本町 (1♂, 1988.3.31 芝) 朝日丘 (1♀, 1987.4.29 永幡)

15. モンキチヨウ *Colias erate poliographys* Motschulsky

大村 (1♂, 1985.10.30 永幡) (2♂, 1986.4.26 永幡) (1♂, 1986.4.29 永幡)

(1♂2♀, 1987.4.3 永幡) (2exs., 1987.4.4 永幡) (1♂, 1987.4.19 永幡)

(1♂, 1987.6.14 永幡) (1♂, 1987.7.4 永幡) (1♂, 1988.3.24 永幡)

(2♂, 1988.4.17 永幡) (2♂2♀, 1988.4.23 永幡) (5♂1♀, 1988.4.26 永幡)

(1♂, 1988.4.30 西田雅昭) (2♂, 1988.5.5 永幡) (1♀, 1988.7.22 永幡)

(1♂, 1988.9.15 永幡) (1♀, 1988.10.1 永幡) (2♂, 1989.3.30 永幡)

(4♂1♀, 1989.6.11 永幡) (1♀, 1989.6.25 永幡) (1ex., 1990.4.29 永幡)

(2exs., 1990.4.30 永幡) 大塚 (2♂, 1988.4.29 芝) (1♂, 1988.7.26 芝)

末広 (2♂, 1988.3.31 永幡・芝) 志染中 (1ex., 1987.3.21 永幡)

跡部 (3♂, 1990.4.2 永幡) 殿畑 (4♂4♀, 1989.6.19 永幡) 細目 (1♂1♀, 1986.5.5 芝)

与呂木 (1♀, 1988.6.23 芝) 戸田 (1♀, 1988.6.17 芝) 増田 (1♂, 1988.5.3 永幡)

16. ムラサキシジミ *Narathura japonica japonica* (Murray)

大村 (1♀, 1986.7.30 永幡) (1♀, 1987.6.28 永幡) (1♀, 1987.7.12 永幡)

(1♂, 1987.7.25 永幡) (1♂1♀, 1988.8.2 永幡) (1♀, 1988.8.3 永幡)

跡部 (1♀, 1990.4.2 永幡) 大塚 (1♂, 1988.7.25 芝) (1♂1♀, 1988.7.26 永幡)

殿畑 (1♀, 1989.6.19 永幡) 福井 (1♂, 1988.7.26 芝) 本町 (1♂1♀, 1988.7.22 芝)

17. ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri* (Murray)

大村 (1♀, 1986.6.15 永幡) (1♂, 1987.5.30 永幡) (1♂, 1987.6.4 永幡)

(3♂, 1987.6.6 永幡) (1♀, 1988.6.26 永幡) 福井 (1♀, 1987.6.13 永幡)

朝日丘 (1♂, 1987.5.18 Br., 永幡) 興治 (2♂, 1986.6.8 永幡)

戸田 (1♂1♀, 1990.6.17 芝)

18. ウラキンシジミ *Coreana stygiana* (Butler)

- 戸田 (2♀, 1986.6.22 永幡) (3♂, 1988.6.20 永幡) (3♂1♀, 1990.6.17 芝)  
御坂 (4♂, 1990.6.17 芝) 殿畑 (1♂, 1989.6.19 永幡)
19. アカシジミ *Japonica lutea lutea* (Hewitson)  
大村 (1♀, 1987.6.7 永幡) (1ex., 1987.6.17 永幡) 与呂木 (1ex., 1988.6.14 永幡)  
戸田 (1♀, 1986.6.22 永幡) (2exs., 1986.6.26 永幡) (2♀, 1987.6.16 永幡)  
(9exs., 1988.6.5 芝) (11exs., 1988.6.6 永幡) (5exs., 1988.6.20 永幡)  
(1ex., 1992.6.20 永幡) 窟屋 (1ex., 1988.6.20 永幡)
20. ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* (Hewitson)  
大村 (2♂, 1986.6.15 永幡) (1♀, 1987.5.28 Br., 永幡) 戸田 (1♂, 1986.6.22 永幡)
21. ウラミスジシジミ *Wagimo signatus* (Butler)  
戸田 (1♀, 1986.6.22 永幡) (1♀, 1988.6.20 永幡)
22. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia attilia* (Bremer)  
戸田 (1ex., 1987.6.16 永幡) (2exs., 1988.6.20 永幡) (1ex., 1989.6.19 永幡)  
(2exs., 1992.6.20 永幡) 朝日丘 (2exs., 1987.6.13 永幡)  
与呂木 (4exs., 1988.6.12 芝) (1ex., 1988.6.13 芝) (3exs., 1988.6.14 永幡)  
(1ex., 1989.6.23 芝) 垂穂 (1ex., 1989.6.19 永幡) 正法寺 (1ex., 1987.6.22 芝)
23. ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* (Murray)  
大村 (3♂, 1987.6.17 永幡) (1♂, 1987.6.18 永幡) (2♂1♀, 1987.7.4 永幡)  
(1♂2♀, 1987.7.5 永幡) (2♂, 1987.7.12 永幡) (1♂, 1987.7.16 永幡)  
(1♀, 1987.7.21 永幡) (1♂, 1987.7.30 永幡) (1♂, 1988.6.26 永幡)  
(1♀, 1989.7.3 永幡) 久留美 (1♂, 1988.6.13 Br., 芝)  
与呂木 (3♂7♀, 1988.6.6~14 Br., 永幡) (3♂2♀, 1988.6.11 Br., 芝)  
(1♂, 1988.6.14 永幡) (8♂, 1988.6.18 芝) (16♂7♀, 1988.6.20 永幡)  
(4♂4♀, 1988.6.22 芝) (6♂7♀, 1988.6.28 芝) (1♀, 1988.7.11 芝)  
(8♂2♀, 1989.6.19 永幡) 平井 (2♂, 1988.6.13 Br., 芝)  
戸田 (4♂, 1986.6.21 永幡) (2♂1♀, 1986.6.22 永幡) (1♀, 1986.6.26 永幡)  
(7♂1♀, 1987.6.16 永幡) (1♀, 1987.6.21 永幡) (5♂, 1988.6.20 永幡)  
(5♂3♀, 1988.6.26 芝) (3♂3♀, 1989.6.19 永幡) (1♂1♀, 1992.6.20 永幡)
24. オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (Murray)  
戸田 (1♂, 1986.6.22 永幡) (3♀, 1987.6.16 永幡) (1♂, 1987.6.21 永幡)  
(1♀, 1988.6.11 永幡) (1♂1♀, 1988.6.26 芝) (2♂3♀, 1989.6.19 永幡)

- (1♂, 1990.6.17 芝) 御坂 (1♀, 1990.6.17 芝) 殿畑 (2♀, 1989.6.19 永幡)
26. *トラフシジミ Rapala arata* (Bremer)  
大村 (2♂1♀, 1986.4.29 永幡) (1♂1♀, 1987.4.19 永幡) (7♂2♀, 1987.4.29 永幡)  
(3♂2♀, 1987.4.30 永幡) (3♀, 1987.5.2 永幡) (2♀, 1988.4.17 永幡)  
(2♀, 1988.4.27 永幡) (3♂1♀, 1988.5.1 永幡) (1♂, 1988.5.4 永幡)  
(2♂5♀, 1988.5.5 永幡・芝) (1♂, 1988.7.22 永幡) (1♂, 1989.4.5 永幡)  
平田 (1♀, 1989.3.30 永幡) 小林 (1♂, 1988.4.30 芝) 朝日丘 (2♀, 1987.4.29 永幡)  
増田 (1♂, 1988.5.3 芝) 善祥寺 (1♂, 1988.5.3 芝)  
戸田 (1♂, 1987.6.21 永幡) (1♂, 1988.6.20 永幡)
27. *コツバメ Callophrys ferrea* (Butler)  
大村 (2♀, 1986.4.26 永幡) (1♂1♀, 1986.4.29 永幡) (1♀, 1986.5.1 永幡)  
(5♂1♀, 1987.4.29 永幡) (1♀, 1988.4.26 永幡) (1♂, 1988.5.1 永幡)  
(1♀, 1988.5.5 芝) 本町 (1♂, 1987.4.18 永幡) 増田 (1♂, 1988.5.3 芝)  
和田 (2♂, 1992.4.6 永幡) 下石野 (1♂, 1992.4.6 永幡)  
正法寺 (3♂, 1990.4.6 永幡・芝) (3♂, 1992.4.2 永幡) (9♂, 1992.4.3 永幡)  
(1♂, 1992.4.6 永幡) (2♂, 1992.4.9 芝)
28. *ゴイシジミ Taraka hamada hamada* (H. Druce)  
本町 (1♂, 1988.5.18 永幡) 窟屋 (1♀, 1986.6.1 永幡)
29. *クロシジミ Niphanda fusca* (Bremer et Grey)  
大村 (5♀, 1986.7.23 永幡) (1♂2♀, 1987.7.5 永幡) (3♂16♀, 1987.7.12 永幡)  
(5♀, 1987.7.21 永幡) (1♂2♀, 1988.7.8 永幡) (1♂1♀, 1988.7.10 永幡)  
(1♂3♀, 1988.7.22 永幡) 戸田 (1♂1♀, 1986.6.26 永幡)  
久留美 (1♀, 1986.7.13 芝) (1♂, 1988.7.11 芝)
30. *ウラナミシジミ Lampides boeticus* (Linnaeus)  
大村 (1♀, 1987.9.22 永幡) (1♂2♀, 1987.9.23 永幡) (1♀, 1987.9.27 永幡)  
(1♀, 1989.10.22 永幡) (1♂, 1989.10.31 永幡) (1♀, 1989.11.5 永幡)  
(1♀, 1989.11.23 永幡) 大谷 (1♂, 1985.11.3 永幡) 蓮池寺 (1♀, 1991.10.6 永幡)
31. *ベニシジミ Lycaena phlaeas daimio* (Matsumura)  
大村 (2♂1♀, 1986.4.24 永幡) (1♀, 1986.4.26 永幡) (2♀, 1986.4.29 永幡)  
(2♀, 1986.9.23 永幡) (1♀, 1987.4.4 永幡) (2♂, 1987.4.19 永幡)  
(1♂2♀, 1987.4.30 永幡) (1♀, 1987.5.2 永幡) (4♀, 1987.6.14 永幡)



(1♂, 1987.6.20 永幡) (1♀, 1987.9.20 永幡) (1♀, 1987.10.22 永幡)  
(1♂3♀, 1988.4.17 永幡) (5♂1♀, 1988.4.26 永幡) (1♀, 1988.4.30 西田雅昭)  
(7♂4♀, 1988.6.28 永幡) (2♀, 1988.9.15 永幡) (2♂, 1989.3.30 永幡)  
(1♀, 1989.11.5 永幡) 大塚 (2♂, 1988.4.29 芝) (4♂, 1988.5.1 芝)  
末広 (1♀, 1986.4.1 芝) (1♂1♀, 1988.3.31 永幡・芝) 跡部 (2♂2♀, 1990.4.2 永幡)  
中里 (1♂, 1988.5.3 永幡) 増田 (1♂, 1988.5.3 永幡) 久留美 (1♂, 1990.4.2 永幡)  
御坂 (1♂, 1987.6.21 永幡) 志染中 (1♀, 1987.3.21 永幡) 井上 (1♂, 1989.6.19 永幡)  
殿畑 (1♂, 1989.6.19 永幡) 小林 (1♂, 1988.4.16 芝)  
大谷 (1♀, 1986.5.5 永幡) (4♂2♀, 1988.4.16 永幡)

32. ルリシジミ *Celastrina argiolus ladonides* (de l'Orza)

大村 (1♂2♀, 1986.4.24 永幡) (1♀, 1986.4.29 永幡) (1♂, 1986.6.15 永幡)  
(1♀, 1987.4 芝) (1♀, 1988.4.26 永幡) (1♀, 1988.5.1 永幡)  
(1♀, 1988.7.下旬 永幡) 東追田 (1♂, 1987.4.5 永幡) (1♀, 1987.4.29 永幡)  
増田 (1♀, 1986.6.14 永幡) 垂穂 (1♀, 1986.6.14 永幡) 平田 (1♂, 1986.6.7 芝)  
久留美 (1♂1♀, 1986.6.7 芝) 御坂 (1♂1♀, 1990.6.17 芝) 戸田 (1♂, 1990.6.17 芝)  
大塚 (1♀, 1988.7.26 芝) 下石野 (1♂2♀, 1992.4.6 永幡) 細目 (1♂, 1992.4.3 永幡)  
正法寺 (5♂, 1990.4.6 永幡・芝) (1♂, 1990.4.15 永幡) (2♂2♀, 1992.4.2 永幡)  
(2♂, 1992.4.3 永幡)

34. ツバメシジミ *Everes argiades argiades* (Pallas)

大村 (2♀, 1986.4.24 永幡) (1♀, 1986.4.26 永幡) (2♀, 1986.4.29 永幡)  
(1♂, 1986.5.1 永幡) (1♂1♀, 1986.5.8 永幡) (1♂, 1986.5.26 芝)  
(1♂, 1986.6.15 永幡) (1♂, 1987.4.4 永幡) (2♂3♀, 1987.4.19 永幡)  
(2♂1♀, 1987.4.29 永幡) (1♂, 1987.4.30 永幡) (1♂, 1987.5.2 永幡)  
(2♂2♀, 1987.6.14 永幡) (1♂1♀, 1987.6.20 永幡) (2♂, 1987.7.21 永幡)  
(1♂2♀, 1988.4.26 永幡) (1♀, 1988.5.1 永幡) (1♂, 1988.9.15 芝)  
(2♂, 1989.6.11 永幡) (4♀, 1990.4.29 永幡) 跡部 (1♀, 1990.4.2 永幡)  
大谷 (1♀, 1986.5.5 永幡) 中里 (1♂, 1988.5.3 永幡)  
興治 (1♂, 1987.4.29 永幡) 井上 (1♂, 1989.6.19 永幡)

35. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha* (Kollar)

大村 (2♂, 1986.7.23 永幡) (1♂1♀, 1986.8.23 永幡) (1♂, 1987.5.9 永幡)  
(1♂, 1987.5.24 永幡) (2♂, 1987.7.4 永幡) (1♂, 1987.7.12 永幡)

- (9♂5♀, 1987.7.27 永幡) (6♂7♀, 1987.8.28 Br., 永幡) (3♂, 1987.9.17 永幡)  
 (2♂1♀, 1987.10.5 永幡) (1♂, 1988.5.5 永幡) (2♀, 1988.5.24 永幡)  
 (1♀, 1988.5.25 永幡) (2♀, 1988.9.15 芝) (1♂1♀, 1988.10.16 永幡)  
 (1♂, 1989.4.30 永幡) (4♂, 1989.11.3 永幡) (3♂, 1989.11.5 永幡)  
 (4♂1♀, 1989.11.23 永幡) 本町 (1♂, 1988.3.31 芝) (1♂, 1988.5.18 永幡)  
 福井 (1♂, 1986.5.13 永幡) 井上 (1♂, 1989.6.19 永幡) 高木 (1♂, 1988.5.5 芝)  
 大塚 (1♂, 1988.4.29 芝) (2♂, 1988.7.26 芝)
36. ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* Niceville  
 大村 (1♂, 1986.6.15 永幡) (1♀, 1987.4 永幡) (1♂, 1987.10.10 永幡)  
 (1♂, 1988.7.22 永幡) (1♂4♀, 1988.10.10 永幡) (1♀, 1989.11.5 永幡)  
 戸田 (1♂, 1987.9.6 永幡) (1♀, 1989.9.16 芝)  
 吉田 (1♂, 1989.3.31 芝) 大塚 (1♀, 1988.7.26 芝) 本町 (1♀, 1988.7.22 芝)  
 正法寺 (1♂1♀, 1988.8.1 芝) 大谷 (1♀, 1986.11.2 永幡)
37. ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice japonica* (Menetries)  
 大村 (2♂, 1987.6.14 永幡) (1♂, 1987.6.17 永幡) (2♂, 1989.6.11 永幡)  
 (1♀, 1989.7.6 永幡) (1♀, 1989.7.8 永幡)  
 殿畑 (3♂, 1989.6.19 永幡) 与呂木 (1♀, 1988.10.2 芝)
38. メスグロヒョウモン *Damora sagana liane* (Fruhstorfer)  
 大村 (1♂, 1986.9.28 永幡) (2♂1♀, 1987.9.20 永幡) (2♂, 1987.9.23 永幡)  
 (1♀, 1987.9.27 永幡) (3♀, 1987.10.7 永幡) (1♂, 1990.6.1 Br., 永幡)  
 戸田 (1♂, 1986.6.8 芝) 興治 (1♂, 1986.6.8 永幡) 窟屋 (1♂, 1988.6.20 永幡)
39. ミドリヒョウモン *Argynnis paphia tsushimana* (Fruhstorfer)  
 大村 (1♀, 1987.9.23 永幡)
40. ウラギンヒョウモン *Fabriciana adippe pallescens* (Butler)  
 善祥寺 (1♀, 1983.10.3 永幡)
41. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius hyperbius* (Linnaeus)  
 大村 (2♀, 1986.7.13 永幡) (1♀, 1986.7.17 永幡) (1♂, 1986.7.18 永幡)  
 (1♂, 1986.8.16 永幡) (1♀, 1986.8.29 永幡) (5♂1♀, 1986.9.23 永幡)  
 (3♂1♀, 1986.9.28 永幡) (1♂1♀, 1987.5.2 永幡) (2♂4♀, 1987.9.20 永幡)  
 (1♀, 1987.9.25 永幡) (1♂1♀, 1987.9.27 永幡) (1♂, 1987.10.7 永幡)  
 (1♀, 1988.5.24 永幡) (2♂, 1988.8.22 永幡) (2♂, 1988.8.25 永幡)

- (2♂, 1988.9.11 永幡) (4♂2♀, 1988.9.23 永幡) (1♂, 1988.9.25 永幡)  
 (2♂1♀, 1988.10.10 永幡) (1♂, 1988.10.16 永幡) (2♂, 1988.5.14 永幡)  
 (2♂, 1989.11.5 永幡) (3♂2♀, 1989.11.23 永幡) (1♂1♀, 1990.4.30 永幡)  
 (2♂, 1990.5.6 永幡) (1♂, 1990.8.6 芝) (2♂, 1992.11.15 永幡)  
 大谷 (1♂, 1991.10.5 永幡) 大塚 (1♂, 1985.11.3 永幡) 高木 (1♀, 1990.9.8 芝)  
 正法寺 (1♂, 1988.5.26 永幡) (1♂, 1989.5.9 永幡)
42. コミスジ *Neptis sappho intermedia* W. B. Pryer  
 大村 (1♀, 1986.7.30 永幡) (1♀, 1986.8.29 永幡) (1♂, 1987.4.29 永幡)  
 (1♂, 1987.4.30 永幡) (1♂, 1987.5.8 永幡) (1♂, 1988.5.4 永幡)  
 (1♂, 1988.7.下旬 永幡) (2♂1♀, 1988.7.31 永幡) (1♂, 1988.8.2 永幡)  
 (1♂, 1988.8.5 永幡) (1♂, 1989.5.14 永幡) (1♂, 1990.5.6 永幡)  
 戸田 (1♂, 1986.5.10 永幡) 正法寺 (3♀, 1988.8.1 永幡・芝)  
 細川中 (1♀, 1986.5.10 芝) (2♂, 1988.5.3 芝) 大塚 (1♂, 1988.8.26 芝)
43. ホシミスジ *Neptis pryeri pryeri* Butler  
 大村 (1♂, 1992.6.20 芝) 上の丸 (1♂, 1992.6.20 芝) 興治 (2♂, 1986.6.8 永幡)
44. イチモンジチョウ *Limenitis camilla japonica* Menetries  
 大村 (1♀, 1986.6.8 永幡) (1♀, 1989.6.11 永幡)  
 戸田 (1♂, 1988.6.5 芝) (1♂, 1988.6.20 永幡)
45. アサマイチモンジ *Limenitis glorifica* Fruhstorfer  
 大村 (1♂, 1986.5.31 永幡) (2♂, 1987.5.24 永幡) (2♂, 1988.7.31 永幡)  
 (3♂, 1988.8.2 永幡) 恵比須 (1♂, 1988.7.25 芝)  
 興治 (1♂2♀, 1986.6.8 永幡) (1♂, 1988.7.26 芝)
46. ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* (Linnaeus)  
 大村 (2♀, 1985.10.30 永幡) (1♂, 1985.11.7 永幡) (1ex., 1986.9.23 永幡)  
 (1ex., 1986.10.26 永幡) (2exs., 1987.9.20 永幡) (1♂1♀, 1987.10.22 永幡)  
 (12exs., 1987.10.18~30 Br., 永幡) (1♀, 1988.4.26 永幡)  
 (1♀, 1988.10.16 永幡) 平田 (1ex., 1987.10. 永幡) 久留美 (1♀, 1986.5.5 永幡)  
 大塚 (1♂, 1985.11.3 永幡) (2exs., 1986.10.15~19 Col., 芝 Br., 永幡)  
 (2♂, 1989.8.12 Br., 芝) 宿原 (1♂1♀, 1989.8.12 Br., 芝)  
 戸田 (1ex., 1992.6.20 永幡) 正法寺 (2♂, 1988.5.29 永幡)
47. アカタテハ *Vanessa indica indica* (Herbst)

大村 (1♂1♀, 1988.10.16 永幡) (1♀, 1989.11.23 永幡)  
鳥町 (3♂2♀, 1989.9.5~7 Br., 永幡) 大塚 (1♂, 1988.7.11 Br., 芝)  
宿原 (3♂1♀, 1988.7.11 Br., 芝) (1♂, 1988.7.16 Br., 芝)

48. ルリタテハ *Kaniska canace* (Linnaeus)

大村 (1♂, 1986.4.5 永幡) (3♂, 1986.4.26 永幡) (1♂, 1986.6.13 永幡)  
(3♂1♀, 1986.8.21 永幡) (1♂, 1986.8.27 永幡) (1♂, 1987.4.3 永幡)  
(3♂, 1987.8.20 永幡) (3♂, 1987.8.21 永幡) (1♂, 1988.3.24 永幡)  
(1ex., 1988.3.31 芝) (1♂, 1988.4.26 永幡) (1♂, 1988.6.22 永幡)  
(1♀, 1988.7.31 永幡) (3♂, 1988.8.25 永幡) (3♂, 1988.8.26 永幡)  
(5♂, 1989.3.12 永幡) (3♂, 1989.8.23 永幡) (1♂1♀, 1989.10.22 永幡)  
(1♂, 1989.11.5 永幡) (1♂1♀, 1989.11.23 永幡) (1♂, 1992.8.22 永幡)  
(1♀, 1992.11.15 永幡) 加佐 (1♀, 1988.11.5 永幡) (1♀, 1989.8.18 永幡)  
戸田 (1♂, 1990.6.17 芝) 大塚 (1♂, 1988.4.4 芝)

49. キタテハ *Polygonia c-aureum* (Linnaeus)

大村 (1♂, 1986.9.23 永幡) (3♂2♀, 1986.10.25 永幡) (1♀, 1986.10.29 永幡)  
(1♀, 1986.10.30 永幡) (1♂, 1987.9. 中旬 永幡) (1♂, 1987.9.23 永幡)  
(1♂4♀, 1987.10.22 永幡) (1♂, 1987.10.30 永幡) (1♂, 1988.3.24 永幡)  
(1♂, 1988.6.5 永幡) (1♀, 1988.7. 下旬 永幡) (2♂, 1988.8.8 永幡)  
(1♂, 1988.10.10 永幡) (3♂, 3♀, 1988.10.16 永幡) (6♂2♀, 1989.11.23 永幡)  
(3♂2♀, 1992.11.15 永幡) 戸田 (1♂, 1986.6.22 永幡) 跡部 (1♂, 1990.4.2 )  
窟屋 (2♂2♀, 1986.6.1 永幡) 増田 (1♂, 1986.6.18 永幡) 蓮花寺 (1♂, 1991.10.6 永幡)  
御坂 (1♂1♀, 1991.10.5 永幡) 大谷 (1♂, 1991.10.5 永幡) 和田 (1♀, 1991.10.7 永幡)  
末広 (3♂, 1986.4.1 芝) (1♂, 1988.3.31 永幡) 跡部 (1♀, 1990.4.2 永幡)

50. ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas japonica* (Stichel)

正法寺 (2♂, 1990.4.6 永幡) (2♂, 1992.4.9 芝) 平田 (1♀, 1987.5.31Br., 永幡)

51. スミナガシ *Dichorragia nesimachus* (Doyere)

善祥寺 (1ex., 1983. 夏 永幡) (1ex., 1983.8.29 永幡)

52. コムラサキ *Apatura metis substituta* Butler

大村 (1♂, 1987.6.25 永幡) (1♂, 1988.6.5 永幡) (1♂, 1989.6.11 永幡)  
戸田 (1♂, 1988.6.6 永幡) 正法寺 (1♂, 1988.8.1 芝)

53. ゴマダラチョウ *Hestina persimilis japonica* (C. et R. Felder)

- 安福田 (1♂, 1986.5.15 Br., 永幡) 大村 (1♂, 1989.5.13 Br., 永幡)  
 正法寺 (1♂, 1988.7.30 芝) (1♂, 1988.8.1 永幡)
54. テングチョウ *Libythea celtis* (Laicharting)  
 大村 (1♂, 1986.3.9 永幡) (1♂, 1986.3.31 永幡) (1♂, 1988.3.24 永幡)  
 戸田 (1♂, 1988.6.5 芝) 御坂 (2♂, 1986.6.8 芝) (1♂, 1988.6.5 芝)  
 正法寺 (1♂, 1988.6.5 Br., 芝) (1♂, 1988.8.1 永幡)
55. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus argus* Butler  
 大村 (2♂1♀, 1986.5.4 永幡) (2♂1♀, 1986.7.23 永幡) (4♀, 1986.9.14 永幡)  
 (3♂, 1987.5.2 永幡) (3♂, 1988.4.26 永幡) (3♂, 1988.5.5 永幡)  
 (7♂1♀, 1988.7.22 永幡) (5♂1♀, 1990.5.6 永幡)  
 増田 (8♂1♀, 1988.5.3 永幡・芝) 石野 (1♀, 1990.4.21 Br., 永幡)  
 本町 (1♂, 1987.4.29 永幡) 大塚 (1♀, 1988.7.25 芝)
56. ジャノメチョウ *Minois dryas bipunctata* (Motschlsky)  
 加佐 (1♂, 1988.7.19 永幡) (1♂, 1990.6.29 永幡) 大村 (1♂, 1987.7.21 永幡)  
 大塚 (2♂, 1988.7.25 芝) (4♂8♀, 1988.7.26 永幡・芝) 宿原 (3♂, 1988.7.9 芝)
57. ヒメジャノメ *Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer  
 大村 (1♀, 1986.8.17 永幡) (2♂, 1987.6.14 永幡) (1♀, 1987.9.17 永幡)  
 (1♀, 1988.8.26 永幡) 戸田 (1ex., 1992.6.20 永幡)  
 大塚 (1♂, 1988.7.26 芝) (1♂, 1988.8.31 芝) 宿原 (1♀, 1988.9.15 芝)
58. コジャノメ *Mycalesis francisca perdiccas* Hewitson  
 戸田 (1♂, 1986.5.17 永幡) 正法寺 (1♂, 1988.5.29 永幡)
59. ヒカゲチョウ *Lethe sicelis* (Hewitson)  
 大村 (1♂, 1986.6.8 永幡) (1♂, 1986.6.13 永幡) (1♀, 1986.6.15 永幡)  
 (1♂, 1986.6.18 永幡) 殿畑 (1♀, 1989.6.19 永幡)  
 御坂 (1ex., 1992.6.20 永幡) 戸田 (1♂, 1986.6.21 永幡) (1♀, 1988.6.5 芝)
60. クロヒカゲ *Lethe diana* (Butler)  
 戸田 (1♂, 1988.6.5 芝)
61. サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii* (Menetries)  
 大村 (1♂, 1986.4.29 永幡) (1♂, 1986.5.4 永幡) (1♂, 1986.8.13 永幡)  
 (1♂, 1987.4.29 永幡) (2♂2♀, 1987.4.30 永幡) (1♂, 1987.5.2 永幡)  
 大塚 (1♂, 1986.5.12 永幡) (1♂1♀, 1988.7.26 永幡・芝)

- 本町 (2♂, 1988.5.18 永幡) 増田 (2♂, 1988.5.3 永幡・芝)
62. クロコノマチヨウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura  
大村 (1♂, 1988.7.22 永幡)
63. ウスイロコノマチヨウ *Melanitis leda leda* (Linnaeus)  
大村 (1♂, 1989.10.15 永幡) (1♂, 1990.9.23 永幡) (1♀, 1991.8.15 永幡)  
大谷 (1♂1♀, 1991.10.6 永幡・芝) 御坂 (1♂, 1991.10.5 永幡)  
大塚 (1♂, 1991.10.6 永幡) 宿原 (1♂, 1991.8.25 芝) 原坂 (1♂, 1990.8.26 芝)  
正法寺 (2♀, 1991.8.16 永幡) (1♂, 1991.8.19 永幡) 吉田 (1♂, 1991.8.25 芝)
64. ミヤマセセリ *Erynnis montanus montanus* (Bremer)  
大村 (1♂, 1986.4.26 永幡) (3♂, 1986.4.29 永幡) (1♂, 1986.5.1 永幡)  
(1♂, 1986.5.4 永幡) (2♂, 1987.4.19 永幡) (3♀, 1987.4.29 永幡)  
(1♂, 1987.5.2 永幡) (1♀, 1988.4.26 永幡) (1♂, 1988.4.27 永幡)  
(1♀, 1988.4.30 西田雅昭) (2♂1♀, 1988.5.1 永幡) (1♂, 1988.5.4 永幡)  
(2♂7♀, 1988.5.5 永幡・芝) (1♂2♀, 1990.4.29 永幡)  
増田 (5♂1♀, 1988.5.3 永幡・芝) 善祥寺 (1♂, 1988.5.3 芝)  
正法寺 (10♂, 1990.4.6 永幡・芝) (5♂1♀, 1990.4.15 永幡) 戸田 (1♀, 1988.5.13 永幡)
65. ダイミヨウセセリ *Daimio tethys tethys* (Menetries)  
大村 (1♂, 1986.7.23 永幡) (1♂, 1987.6.1 永幡)  
興治 (1♀, 1986.6.8 永幡) 戸田 (1♂, 1988.6.5 芝)
66. コチャバネセセリ *Thoressa varia* Murray  
大村 (1♂, 1986.5.4 永幡) (4♂, 1986.5.8 永幡) (1ex., 1986.7.23 永幡)  
(1♂, 1986.8.29 永幡) (1♀, 1987.4.30 永幡) (2♂, 1987.5.2 永幡)  
(1♂, 1988.5.4 永幡) (7♂1♀, 1988.5.5 永幡・芝) (1♀, 1988.8.2 永幡)  
(1♀, 1988.9.11 永幡) 大塚 (1♀, 1988.7.26 芝) 戸田 (1♀, 1986.5.17 永幡)
67. キマダラセセリ *Potanthus flavus flavus* (Murray)  
大村 (1♂2♀, 1986.9.18 永幡) (1♀, 1987.6.15 永幡) (1♂, 1987.9.23 永幡)  
(1♂2♀, 1988.9.11 永幡) (1♂, 1988.9.15 永幡)  
戸田 (1♂, 1987.6.21 永幡) (1♂, 1988.6.5 芝) (1♂, 1988.7.2 芝)  
大塚 (1♂, 1988.7.26 芝) (3♂, 1988.8.31 芝)  
御坂 (1♀, 1991.8.25 芝) 窟屋 (1♀, 1988.6.20 永幡) 増田 (1♂, 1986.6.18 永幡)
68. ホンバセセリ *Isoteinon lamprospilus lamprospilus* C. et R. Felder

大村 (1ex., 1988.7. 下旬 永幡) (1♂, 1988.7.31 広畑政己) (1♀, 1988.8.2 永幡)  
大塚 (1♂, 1988.7.25 芝) (3♀, 1988.7.26 永幡・芝) 久留美 (1♂, 1988.7.11 芝)

69. ミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis* (Butler)

大村 (1♂, 1988.7.22 永幡)

70. オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida pellucida* (Murray)

大村 (1♂, 1986.8.23 永幡) (1♂1♀, 1986.9.14 永幡) (1♀, 1987.9.17 永幡)  
(1♀, 1987.9.23 永幡) (2♂, 1988.6.26 永幡) (1♂, 1986.8.25 永幡)  
(2exs., 1988.8.26 永幡) (6♂12♀, 1988.9.11 永幡) (1ex., 1988.9.15 永幡)  
(9exs., 1989.9.10 永幡) (4exs., 1989.9.15 永幡) 窟屋 (1♀, 1988.6.20 永幡)  
戸田 (1♂, 1986.6.21 永幡) (7♂, 1988.6.26 芝) 殿畑 (1♂, 1989.6.19 永幡)  
増田 (1♂, 1986.6.18 永幡) 与呂木 (1♂, 1988.6.8 芝)

71. チャバネセセリ *Pelopidas mathias oberthurei* Evans

大村 (1♂, 1986.8.29 永幡) (1♂, 1986.9.14 永幡) (1♂, 1986.9.18 永幡)  
(1♂, 1986.9.23 永幡) (1♂, 1987.7 中旬 永幡) (2♂, 1989.11.23 永幡)  
戸田 (1♀, 1987.6.16 永幡) 小林 (1♀, 1988.8.26 芝)

72. イチモンジセセリ *Parnara guttata guttata* (Bremer et Grey)

大村 (2exs., 1986.8.22 永幡) (1ex., 1986.8.23 永幡) (1ex., 1986.8.27 永幡)  
(5exs., 1986.8.29 永幡) (6exs., 1986.9.23 永幡) (1ex., 1987.5.24 永幡)  
(1ex., 1987.5.31 永幡) (1ex., 1987.7. 中旬 永幡) (10exs., 1988.9.11 永幡)  
(1ex., 1988.9.15 永幡) (20exs., 1989.9.10 永幡) (9exs., 1989.9.15 永幡)  
戸田 (1♂, 1988.6.5 芝)

## ウラクロシジミの県南部における記録

永 幡 嘉 之

ウラクロシジミ (*Iratsume orsedice*) は、兵庫県では北部山地を中心に生息する種で、南部では少ないようである。ところが、山本 (1971) のなかに「1964年には三田市内で得られたことがあり」と

いう一節があり、非常に興味をもった。山本広一氏に何うと、有馬の森氏から聞いたという御返事だったので、岡村八郎氏に問い合わせたところ、わざわざ森 正人氏に御照会のうデータを知らせて下さった。未発表のようなので、報告しておきたい。

三田市高次 1 ♂ 23-VI-1965 森 博

また、同時に次の記録も御教示頂いている。

ウラミスジシジミ *Wagimo signatus* 三田市高次 7exs., 16-19-VI-1963 森 博

クロコノマチョウ *Melanitis phedima* 神戸市有馬温泉 1 ♀, 27-VII-1963 森 博

クロコノマチョウの年代の古い記録も貴重と思われる。

なお、これらの記録は、当時中学生だった私が岡村氏より格別の御好意を賜った上で発表も依頼されていたものであるが、私の怠慢により5年も遅くなってしまったものである。その点をお詫びするとともに、岡村八郎氏、森 正人氏、山本広一氏、そして残念ながらすでに他界された森 博氏に深い感謝の意を表したい。

## ヘビトンボを西宮市で採集

田 中 稔

ヘビトンボ *Protohermes grandis* Thunberg を西宮市内で採集しているので報告する。

1ex., 27・VI・1992, 兵庫県西宮市神原, 田中 稔採集。

駐車場の水銀燈に飛来していたものを拾った。付近は住宅が密集しており、すぐそばに御手洗川が流れているがとても本種が生息できる環境とは思えず、仁川より幼虫が流れてきたものが羽化発生したものとおもわれる。又、付近にはヘイケボタルを時々目撃するので同じような例と思う。



## オオツノトンボを西宮市で採集

田 中 稔

オオツノトンボ *Protidricerus japonicus* MacLachlan の採集例は森田真澄氏の「オオツノトンボ神崎町で採集」(きべりはむし 第18巻 第2号)があるが、筆者も西宮市で採集しているので報告する。

lex., 兵庫県西宮市神原, 7・Ⅷ・1987, 田中 稔採集.

駐車場の水銀燈に飛来していたものを拾った。付近に本種が生息するような環境はないので、トラックの荷台にでもどこからか運ばれてきたものと思われる。

「原色昆虫大図鑑 Ⅲ, 昭和40年」には「本州・四国および九州の山地に生息し, 6月下旬から8月下旬まで獲られるが個体数は少ない。」とある。

本種については塚口茂彦氏に御教示をいただいた。ここにお礼申しあげる。

## 笹部で得た3種のウスバカゲロウ

森 和 夫

アリジコクは、変わった体形とスリバチを作ることで、子供の頃から興味を引く虫であった。その成虫であるウスバカゲロウは夜行性であるため、昼間は雑木林の枝などにひっそりと止まっている。

最近「砂丘のアリジコク」(松良俊明著, 思索社刊)を読んだところ, ウスバカゲロウの生活史についても詳しく調べられており, 種類もいろいろといることを知った。

これまで筆者が目撃したものは普通種のウスバカゲロウばかりであったが, 自宅近くの笹部(川西市)へ時々足を運んでいる内に, 後記データのようにコマダラウスバカゲロウやカスリウスバカゲロウも採集することができた。谷間の狭い地域で3種も生息していることは珍しいと思われるので報告する。

①ウスバカゲロウ *Hagenomyia micans* MacLachlan

○笹部駅北側の雑木林内

8-Ⅷ-1965. 1ex.

各地で見られる普通種である。幼虫はスリバチ状の巣穴を作るため見付け易い。成虫は、昼間に雑木林内を歩いていると弱々しく飛び出してくることがある。

②コマダラウスバカゲロウ

*Dendroleon jezoensis* Okamoto

○笹部駅北東の林道

○27-Ⅶ-1990. 2exs.

夜間9時頃、台場クヌギを見回っている時、ゆるやかに飛んでいる個体が、ヘッドランプの明りに浮かび上がった。

本種の幼虫は、地衣類の生えた岸壁等に生息しているそうである。インセクトリウム誌 Vol. 28, No. 3 (1991) の表紙には幼虫の見事なカラー写真が掲載されている。当地では、初谷川にそって崖が続いているため、ここで発生しているものと考えられる。

③カスリウスバカゲロウ

*Distoleon nigricans* Okamoto

○笹部駅内の灯火

○27-Ⅵ-1991. 1ex., 28-Ⅵ-1991. 1ex.

2頭とも、蛍光灯下の壁に止まっていた。三角紙に入れたままで、毎日夜間に蜂蜜を薄めて飲ませたところ、数日間は生存していた。この間に、三角紙の中に灰緑色の卵を各々10個ずつほど産んだが、いずれも孵化しなかった。

翅にカスリ紋様があり、きれいなウスバカゲロウである。本種の幼虫は、スリバチ状の巣穴を作らず、生活史もよく分っていないようである。

## ムモンオオハナノミを西宮市で採集

田 中 稔

ムモンオオハナノミ *Macrosiagon nasutum* Thunberg を西宮市で採集しているので報告する。

1ex., 兵庫県西宮市甲陽園本庄町, 9・Ⅷ・1989, 田中 稔採集。

早朝, ヤブガラシの花にマメコガネと共に来ていた。県下における記録としては3例目であり, 高橋寿郎氏は“きべりはむし”(Vol. 17, No. 1, P. 16, 1989)に報告をしておられる。

採集した個体は体長12mmで「原色日本甲虫図鑑」(Ⅲ)(1985)には6～8月。ドロバチ類に寄生する。本州, 四国, 琉球(石垣島), 台湾, 中国, フィリピン, スマトラ, ボルネオ, ニコバルに分布となっている。

## ミツコブエンマコガネ 網干に産す

田 中 稔

ミツコブエンマコガネ *Onthophagus trituber* Wiedeman, 1823 は東南アジアに広く分布している糞虫であるが筆者は網干産の本種を所持しているので報告する。

5♂♂, 8♀♀, 兵庫県揖保郡網干, 30・X・1991, 田中 勇採集。

揖保川沿いの土手にある犬糞にて採集されたもので, 牛糞もあったがそれにはマグソコガネ類が来ていたという。採集者の田中 勇氏の話によれば揖保川の河口に埋立地があり土を台湾より運んだので本種も“輸入”されたのではないかとの事である。

本種についての報告は1931年の三輪勇四郎, 台湾産昆虫目録(鞘翅目), 台湾総督府中央研究所報告 No. 55: 281 にはミツトゲエムマコガネの名で, スンダ列島, インドシナ, 台湾に分布とある。

報告にあたっては高橋寿郎氏に親切な御教示を頂いた, ここにお礼を申しあげる。又本種をこころよく御恵与下さった田中 勇氏に感謝する。

## ヨコミゾコブゴミムシダマシをシイタケで採集

森 田 真 澄

ヨコミゾコブゴミムシダマシ *Usechus chujoi* KASZAB は原色日本甲虫図鑑(Ⅲ)1985年、保育社刊には「シイタケより見出された例がない」と記載されている。筆者は1990年4月10日、神崎郡神崎町粟賀にて本種をシイタケ原木および菌床シイタケ培地で数頭目撃し1頭を採集した。状況からシイタケ菌糸を食している可能性が高いと考えられる。また同所、ススキ葉上で1987年8月7日に1頭、1990年7月9日に1頭のクロオビツツハムシ *Physosmaragdina nigrifrons* (HOPE) を採集しているので併せて報告しておく。

## 猪名川町におけるツシمامツボシタママシの追加記録

森 和 夫

本誌 Vol. 20, No. 2 (1992) にて、猪名川町周辺のツシمامツボシタママシ *Chrysobothris samurai* Obenberger の採集記録を報告したが、三草山南腹(猪名川町側)においては、ムツボシタママシ *Chrysobothris succedanea* E. Saunders しか得ていなかった。

しかし、今回はこの南腹でもツシمامツボシタママシを採集することができたので追加報告する。

### 〈採集データ〉

○兵庫県川辺郡猪名川町三草山

○4-VII-1992.

alt. 420m付近：4♂, alt. 200m付近：1♂

前記の4♂は、クヌギの倒木の幹に次々と飛来したものを採集した。後記の1♂は、伐採されたクヌギの枯枝に止っていた。

## 三草山で得たベニバハナカミキリとアオカミキリ

森 和 夫

猪名川町の三草山において、ベニバハナカミキリとアオカミキリを採集したが、いずれも当地の周辺では得難い種である。特に、三草山での記録は無いものと思われるので報告する。

### ①ベニバハナカミキリ

*Paranaspia anaspoides* (Bates)

#### 〈採集データ〉

○兵庫県川辺郡猪名川町三草山

○23-VI-1990. 1ex., 15-VI-1991. 3exs.

本種は、近年、ケヤキやコナラ等の木のウロでの採集方法が知られるようになったが、依然採集しにくい種類である。

これまで、当地周辺では、笹部の栗の花を掏う方法が最も確率の高い採集法と言われていた。

筆者は、以前に笹部駅東側の台場クヌギの幹に止っている個体を採集したことがあった(20-VI-1965, 1ex.)。その後、1990年に三草山に登った際、薄暗い雑木林中の台場クヌギの縁を飛んでいるカミキリを見付けた。色合いと大きさから見て、ひょっとしてと思いながらネットで掏ったところ本種であった(前記データ参照)。この際は、時間がなかったため直ぐに下山したが、次の年に、同じ台場クヌギとその周辺も調べた。その結果は、やはり台場クヌギのまわりを飛んでいた1頭と、ウロの中にいた2頭を採集することができた。この時期には、マイマイガの終令幼虫が幹にいくつも張り付いているが、中にはウロにも入っているものもあって多少グロテスクである。ウロの入口から息を吹きかけるとマイマイガの幼虫がうごめくと共に、中にベニバハナカミキリがいれば、あわてて這い出してくるため容易に採集することができた。ここでの個体数は多くはなかったが、台場クヌギのウロで発生していることは間違いないものと思われる。

また、同様な環境は、周辺の山々にも散在するため、他にも発生地が見出せるものと考えられる。

### ②アオカミキリ

*Schwarzerium quadricolle* (Bates)

#### 〈採集データ〉

○兵庫県川辺郡猪名川町三草山

アオカミキリは、以前には宝塚市に多産したそうであるが、現在では採集された話を聞かない。また、食樹であるカエデが豊富な箕面公園においても採集記録は非常に少ない。最近の確実な産地としては池田市東山がよく知られているが、ここでも個体数は多いものではないようである。

今回、筆者は前記データのように三草山にて本種を採集した。猪名川町では初めての記録ではないかと思われる。

当日は、晴天で風も少ない採集日和であった。ヒロオビミドリシジミは、すでに発生期を過ぎて痛んでいたが、山道には、時おりオムラサキの新鮮な♂が旋回していた。午後4時頃、下山途中でオムラサキを取りそこねた際に、中型のカミキリが道端のヌルデの葉に止ったものが目に入った。これが前記の個体であった。

本種の飛翔力からみて、遠くから飛来したとは考えられないため、付近に発生木があるものと考えられる。

## シラホシハナムグリの新産地

(兵庫県甲虫相資料・276)

高橋寿郎

兵庫県下におけるシラホシハナムグリ *Protaetia brevitarsis* (Lewis, 1879) については筆者がかつて本誌上に発表させて頂いた (Vol. 16, No. 1, 1988)。その後筆者県下で新たに採集したことが無く記録の方も見られないようである。1992年9月9日クワガタムシの多産で知られている神戸市西区寺谷を蜂谷幸雄氏に案内して頂いた。当日その地で樹液に来ていた本種が蜂谷幸雄氏によって2♂採集された。シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis submarmorea* (Burmeister, 1842) と一緒に樹液に来ていたものである (標本は筆者保管)。このあたりもっと詳しく調べると案外数多く見られるのかもしれない。新しい産地として報告しておく。

## オオセンチコガネの多産地

(兵庫県産甲虫相資料・277)

高橋 寿郎

兵庫県下でのオオセンチコガネ *Geotrupes (Phelotrupes) aurata* Motschulsky, 1857の分布はほぼ県下全域に及んでいるように思われるが瀬戸内に面した海岸線に近い地域では可成り分布が限定されているようであり個体数もそれ程多いとは思われない。野外での採集は可成り困難のようである。1992年揖保郡新宮町福原で豚肉ミンチによるベートトラップを設置した所、7月7日に20exs., 9月17日, 6exs. が集っていた。このあたりには野生状態では相当数多くいるようなのである。新産地として報告しておく。

## ヒラタアオコガネの産地

(兵庫県甲虫相資料・278)

高橋 寿郎

本誌 Vol. 20, No. 2 に“ヒラタアオコガネの分布”を發表させて頂いた所、早速会員の方から次のような新しい産地の連絡を頂いたので此処に紹介させて頂きたいと思う。

近畿地方では大阪と兵庫位しか記録を知らないと書いたが“昨年(1991)の連休のシーズンに、上野高敏氏が奈良の春日山でたくさん採ったのを覚えている”と伊藤 武氏から連絡を頂いた。

また永幡嘉之氏からは県下で浜坂町池ヶ平で1ex., 18-V-1991採集しており、兔和野(美方郡村岡町)にも多く産するとの御教示を頂いた。

## オオタコゾウムシの散歩

(兵庫県甲虫相資料・279)

高橋 寿郎

1992年春、県立人と自然の博物館設立準備室を訪問した際、沢田佳久博士から烏原貯水池畔にこのゾウムシが多くいますよとカラーで撮影されたオオタコゾウムシ *Hypera punctata* (Fabricius, 1775) の写真を4枚頂いた。始めて見るゾウムシなので裏山のことであるから調べに行かなくてはと思いつつもその年は県下の他の地域での調査を引受けていたものだから調べに行くことが出来なかった。ところがその年の9月吾が家から歩いて10~15分位の街の中の歩道上で次のように歩いているこのゾウムシを3頭つかまえた。lex., 14-IX-1992, 兵庫区湊川町4丁目。lex., 18-IX-1992, 夢野町1丁目。lex., 3-X-1992, 菊水町2丁目(これらの標本は10月22日, 人と自然の博物館を訪問, 沢田佳久博士にオオタコゾウムシに間違いのないことを同定して頂き, 同博士の手許に保管して頂いている)。ところでこのゾウムシのことを蜂谷幸雄氏に話をしていた所, 同氏の次女幸<sup>あゆ</sup>サン(市立兵庫大開小学校3年生)が学校(兵庫区大開通4丁目)の2階のベランダの手摺で数匹採集されて飼育しているとのこと, 同時に男子生徒も同じく採集してその数は数十頭に及ぶと云うことを教えて頂いた(内死んだ1頭は筆者の手許に頂いている。採集日ははっきりしないが9月10-20日の間とのことであつた)。さらに筆者の手許にある標本を調べて見ると次のような標本があつた。神戸市西区伊川谷町前開 lex., 2-VIII-1988, lex., 28-IX-1988。神戸市兵庫区氷室町の自宅の物干場の洗濯物にきていたものと書いたラベルがついた1頭もあつた(lex., 5-XI-1990)。このように見えてくると神戸市の兵庫区, 西区にこのゾウムシがいることになる。森本 桂博士の原色日本甲虫図鑑(IV)(1984)を見るとこのゾウムシの図説は無く, タコゾウムシ属の検索表には出て来るが“本州・ヨーロッパ・北アメリカ。日本への定着は不明”とある(p.285)。日本産昆虫総目録 I (p.503, 1989)にも分布は本州, ヨーロッパ, 北米となっている。神戸に何時頃からいたゾウムシなのか少なくとも筆者の採集したのが1988年のものがあるのだからその頃には神戸にいたことになる。日本からの初めての記録は, 1979年横浜市が報告されており(WATANABE, 1979), それ以後の日本での記録は見られないようである。

神戸市の街の中に見ることが出来, またかなりの個体数が見られるということからして神戸市の裏山にはわりと広い範囲に分布しているのかもしれない。このあたりはもう少々詳しく調べる必要があ



りそうだ。沢田博士は、1992年、三田市でも見つけておられる。

このゾウムシは有名な Fabricius の命名種なので手許にあった Ella Zimsem の “The Type Material of I. C. Fabricius” (1964) を見てみると p. 217, No. 3754 に *Curculio punctatus* Fabricius, Syst. Ent. 1775, p. 150. 119 (Syst. El. II, 529, 133) Kiel 8 specimens とあり、この種のタイプ標本はキール大学に保管されているようである。ここでは属名が *Curculio* となっている。

A. Hoffmann の Faune de France, 59, Coleop. Curculionides. p. 575-576, 1954 に *Hypera zoilus* Scopoli, 1763. Ent. Car., p. 33=*punctatus* F., 1775, Syst. Ent. p. 150 とある。即ち *punctatus* は *Hypera zoilus* と同じだとなっている。そして図示されている図は *Hypera punctatus* といわれている種と違う図が示されている。ただしフランスには普通とも書いてある。

また、H. Hatch の The beetles of the Pacific Northwest part. V, 1971 を見ると (p. 287)。このゾウムシは clover leaf beetle とされていて1902年 Pacific Northwest の Victoria で記録されたのが始めてであるとされていて普通に見られる種とあり、さらに “It feeds on the stems and leaves of clover both as adults and larvae and may be injurious, but in the eastern United States is usually controlled by a fungus *Entomophthora sphaerosperma* Fres. (Titus 1911)” と書いてある。

図もついている (pl. 36, Fig. 5)。

どうも神戸での採集の状況からして本種は飛翔してあちこちに動いているように思われるのだが今一つその生活史と云うか生態がよくわからない。沢田博士が目下飼育しておられるのでいずれ色々なことがわかると思われる。とりあえず神戸市に本種がいると云う報告だけしておく。

末筆になって大変申し訳ないが本種について色々御教示下されまた貴重論文のコピーを頂いた、人と自然の博物館の沢田佳久博士に厚く御礼を申しあげさせて頂く。

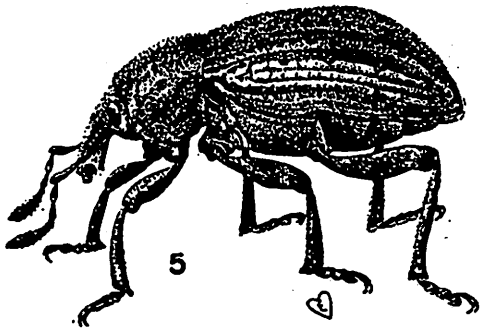


図 3. *Hypera punctata* (Fabricius, 1775)  
Hatch, 1971

## 県関係文献紹介

### ○ 芦屋の自然 I—市街地の自然—

#### 芦屋市立打出教育文化センター（X・1992）

表題のごとく自然観察ガイドブック①として芦屋市の市街地芦屋川沿い、宮川沿い、岩園町、城山、高座谷の四地域に分け季節ごとに各地域に生息する動植物をわかりやすく解説、カラー写真を多く使ってよく似た動植物の見分け方のポイントなどを載せ、野外活動や自由研究に役立つ内容となっている。

カラー写真が特に美しく大変気持ちよい冊子となっている。芦屋市教委同和教育課の古市景一氏の編集でわざわざ御恵送下さった古市氏に厚く御礼を申しあげる。

尚第2集「山地編」も引き続き出版される由。

### ○ 因幡のむし No28 (Feb. 1993)

（鳥取大学昆虫同好会々誌）

永幡嘉之氏から御恵送頂いた。兵庫県的美方郡における記録が多く発表されているので県関係の文献として重要なものである。ただ拝見していて虫のことがわかっているのは永幡氏1人のように思われる。したがって氏の編集と云うことになるのだが氏が卒業したらどうなるのかと若干前途不安な会誌のようにも思われる。

### ○ 伊丹の自然（伊丹市立博物館、平成4年3月31日発刊）

第1巻 伊丹市の自然環境。 184p.

第2巻 多彩な生物の世界。 188p.

他に別冊28p. と付図が6枚ついている。

なかなか落ち着いた装丁、美しいカラー図版が多数使用されている。見て楽しい出来である。勿論一般の人達を対象にしたものであるから概略的な説明になっている。多くの方々による協同執筆で昆虫関係では東 正雄・加藤信一郎・河上仁之・新家 勝氏等々が担当しておられる。「昭和40年代の昆陽池の昆虫」とかつての伊丹の昆虫相をながめている所など有益である。そして現在の昆虫を眺めるということになるのであるがいわゆる一般的な説明である点この種文献としては止むを得ないと思わ

れる。どちらにしても気持ちのよい文献である。上記のごとく奥付の発刊年月日になっているが新家勝氏の御好意で連絡頂き入手したのは1993年3月になってからである。お世話頂いた新家 勝氏に厚く御礼申しあげる（頒価 10,000円）。

## 県関係・学会誌・同好会誌・連絡誌

( X ・ 1992 - III ・ 1993 )

混虫ずかん（但馬むしの会連絡誌）

No34 ( X ・ 1992 ), No35 ( X II ・ 1992 ),

No36 ( I ・ 1993 ).

兵庫生物ニュース（兵庫県生物学会）

No10 ( X ・ 1992 ), No11 ( X I ・ 1992 ), No12 ( I ・ 1993 ).

自然とともに（兵庫県環境局環境管理課）

No19 ( X ・ 1992 ), 20 ( I ・ 1993 ).

N/K通信（Nature Association）

No11 ( X ・ 1992 ), No12 ( II ・ 1993 ).

のせ（大阪昆虫同好会連絡誌）

Vol. 21, No8-12 ( VIII - X II , 1992 ) Vol. 22, No1, 2 ( I , II , 1993 ).

Crude（大阪昆虫同好会々誌）

No37 ( Dec. 1992 ).

PARNASSIUS（淡路昆虫研究会々誌）

No38 (X II · 1992)

INSECT (淡路昆虫研究会連絡誌)

No36 (X II · 1992)

兵庫陸水生物 (兵庫陸水生物研究会)

No42 (X II · 1992)

姫昆サロンニュース

No88, 89 (I · 1993)

ハーモニ (人と自然の博物館ニュース)

No2 (II · 1993)

## 交 換 誌

すずむし (倉敷昆虫同好会々誌)

No127 (X I · 1992)

KURAKON (倉敷昆虫同好会連絡誌)

No28 (X · 1992). No29 (II · 1993).

## 編集後記

- 神戸は久方振りに2月2日は雪が降りつもる朝となりました(2月25日にも雪が舞いましたが—)。だが今年の冬は全般的には暖冬だったようです。
- 皆様方にはお変わりございませんか。
- 雪の中での生活は大変だと思います。冬になると零下30度の中で働け、働け(ラポート, ラポート)とおい立てられたカザック共和国での収容所生活が思い浮かびます。本年はこのカザック共和国(ウスチカメノゴルスク)への直行の航空路が春には開設される予定だからそれを前提として墓参に行かないかとのさそいを受けています。凍土に穴を掘り裸に毛布をくるんだまま埋葬した戦友の姿が浮かんできます。
- 今号は多くの投稿を頂きまして有難う御座いました。都合で一部次号に廻らせて頂きました。御投稿頂いた方には真に申し訳御座いません。お陰さまで充実した内容になったと思いますがいかがでしょうか?
- これにこりず気楽に御投稿下さい。
- 最後に私事にわたり恐縮ですが編集子が採集し集めました兵庫県産甲虫類標本を主体に世界のコガネムシ標本その他(半翅目標本もふくむ), 5,643種, 64,069点, 標本箱405(いずれも概数で実際にはそれ以上になっています。一応1992年前半採集したものまで), 1993年2月に3回にわけて県立 人と自然の博物館(三田市)で保管して頂くように納入させて頂きました。

(T)

---

---

きべりはむし 第21巻第1号

1993年5月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：(株) 文 尚 堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11

---

---